

次号
特集ホスピタリスト
のための
栄養療法

目の前の患者の低栄養を認識し、治療介入できているでしょうか？
我々ホスピタリストや病院で働く医療スタッフがかかわる患者のほとんどは、低栄養のリスクを抱えています。実際の頻度も高く、避けて通ることができない問題となっています。成人低栄養の原因は、急性疾患、慢性疾患、社会生活環境（飢餓・摂食不良）の3つに分けられますが、特に先進国では、高齢化もあり、疾患・炎症（急性・慢性疾患）による低栄養が問題となっています。2018年には世界初の統一された低栄養の診断基準が示され、その後、低栄養に関する研究が国内外ともに活発に行われています。低栄養はさまざまな疾患で入院期間の延長、介護負担の増大、予後悪化との関連が明らかになっており、経済的にも大きな損害を与えています。我々は、患者・家族のためだけでなく、経済的貢献も念頭に、低栄養を認知・予防・治療していく必要性に迫られています。これら近年の栄養療法への必要性・重要性の高まりから、Hospitalist 誌では初めて「栄養療法」を特集として扱うことになりました。

Part 1 低栄養・低体重を示す病態の
評価・治療

- 第1章 低栄養の害、栄養療法の重要性
第2章 栄養評価のための身体所見、採血、
栄養評価ツール
第3章 サルコペニア、フレイル、カヘキ
シー、筋肉量の評価
【コラム】 低栄養患者の栄養開始時に注意が
必要なリフィーディング症候群

Part 2 入院編：栄養療法総論

- 第4章 入院中の栄養療法総論：
①栄養投与ルート選択
【コラム】 嚥下障害・誤嚥性肺炎（加齢、認
知症、神経疾患ほか）
【コラム】 終末期と栄養療法の選択
第5章 入院中の栄養療法総論：
②目標栄養投与量
【コラム】 リハビリ強度における栄養投与量
第6章 入院中の栄養療法総論：
③経腸栄養の濃厚流動・栄養剤
の選択、投与速度など
第7章 入院中の栄養療法総論：
④中心静脈栄養の作り方など

Part 3 入院編：急性期からの栄養療法各論

- 第8章 重症患者（敗血症など）とICU退
室後、退院まで
第9章 急性心不全と慢性心不全、入院か
ら外来まで
第10章 腎不全（急性から慢性腎不全、入
院から外来まで）
第11章 炎症性腸疾患（入院から外来まで）
第12章 肝疾患（急性肝不全（急性肝炎）、
肝硬変（肝性昏睡から低栄養の予
防）、NASH、NAFLDなど）
第13章 脾疾患（急性脾炎・慢性脾炎）
【コラム】 悪性腫瘍（周術期を除く）
【コラム】 周術期（主に消化器がん領域）
【コラム】 褥瘡
Part 4 外来編：慢性期の栄養療法
第14章 外来栄養療法総論（健康人にも通
用する栄養療法も含めて）
第15章 生活習慣病：高血圧、高尿酸血症、
脂質代謝異常
第16章 肥満、メタボリックシンドローム
第17章 糖尿病
第18章 慢性肺疾患（COPD、間質性肺炎）
【付録】 栄養指導のまとめ、栄養加算の一覧表

※誌面の都合により、内容が変わることがあります。

■ Vol.1 (2013年)

No.1 ホスピタリスト宣言

No.2 感染症

■ Vol.2 (2014年)

No.1 腎疾患

No.2 膠原病

No.3 消化管疾患

No.4 緩和ケア

■ Vol.3 (2015年)

No.1 呼吸器疾患1

No.2 外来における予防医療

No.3 循環器疾患1

No.4 血液疾患

■ Vol.4 (2016年)

No.1 代謝内分泌

No.2 周術期マネジメント

No.3 腫瘍

No.4 他科の知識1

■ Vol.5 (2017年)

No.1 神経内科

No.2 呼吸器疾患2

No.3 感染症2

No.4 老年科

■ Vol.6 (2018年)

No.1 腎疾患2

No.2 糖尿病

No.3 肝胆脾

No.4 心不全

■ Vol.7 (2019年)

No.1 外来マネジメント

No.2 総合内科のための集中治療

No.3 抗血小板薬、抗凝固薬のすべて

No.4 内科エマージェンシー

■ Vol.8 (2020年)

No.1 アレルギー

No.2 画像診断①胸部・縦隔編

No.3 手技

No.4 病棟管理

■ Vol.9 (2021年)

No.1 膠原病2

No.2 内分泌疾患2

No.3 不整脈1

No.4 不整脈2

■ Vol.10 (2022年)

No.1 身体診察

No.2 脳梗塞

No.3 画像診断②脳脊髄編

No.4 感染症3

■ Vol.11 (2023年)

No.1 コマナジメント

No.2 透析診療のすべて

No.3 栄養療法

No.4 STI/HIV

本誌で“Patient journey”という言葉が最初に出てきたのは、30号「病棟管理」特集でした。ケア移行の章で引用されていた図（さまざまなケアの場がマッピングされ、その移行を示す矢印と、関連するトピックを俯瞰するもの）が、印象に残っています（医学界新聞 第3473号の記事にもありwebで閲覧できます）。今回の透析特集の検討では、当初から、時系列で診療の全体を俯瞰する視点をもたせることが大きなコンセプトとしておかれ、編集工程で何となくこの図を思い出しました。原理のことから法的な観点まで、透析診療における各要素を配置していく道のりをたどり、各章のつながりが見え、そして「はじめに」で本特集のPatient journeyをいただいたとき、最後のピースがはまったように感じました。この1冊は保存版として、透析室にクリニックにぜひお備えください。付け加えておくと、『病棟管理』号のPX (Patient experience) についての章を再読し、よりイメージをふくらませることができた気がします。

● 広告 医学書院…334, 411
一覧 金原出版…480
南江堂…552

南山堂…300
日本医事新報社…376
扶桑薬品工業…299

Vol.11 No.2 (第40号) 2024年1月1日発行

Hospitalist

(1部) 定価：本体4,600円＋税

ISBN 978-4-8157-2044-5

発行者 金子 浩平

発行所 株式会社 メディカル・サイエンス・インターナショナル
〒113-0033 東京都文京区本郷1-28-36
電話：編集部 03-5804-6056 FAX：編集部 03-5804-6054
販売部 03-5804-6051 販売部 03-5804-6055
URL：http://www.medsico.jp Eメール：hospitalist@medsico.jp
振替：東京 7-28572

印刷所 横山印刷株式会社 電話03-3622-6161

広告取扱 メディカルブレーション 電話03-3814-5980

文京メディカル 電話03-3817-8036

本誌の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権（送信可能化権を含む）は（株）メディカル・サイエンス・インターナショナルが保有します。本書を無断で複製する行為（複写、スキャン、デジタルデータ化など）は、「私的使用のための複製」など著作権法上の限られた例外を除き禁じられています。大学、病院、診療所、企業などにおいて、業務上使用する目的（診療、研究活動を含む）で上記の行為を行うことは、その使用範囲が内部的であっても、私的使用には該当せず、違法です。また私的使用に該当する場合であっても、代行業者等の第三者に依頼して上記の行為を行うことは違法となります。

【JCOPY】＜出版者著作権管理機構 委託出版物＞本書の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に出版者著作権管理機構（電話 03-5244-5088、FAX 03-5244-5089、info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。